

# 木造住宅建築の墜転落災害を防止しよう

## Chapter.1

### 木造住宅建築現場の災害事例及び主な防止対策(1)

- ① 解体工事
- ② 基礎工事
- ③ 足場組立て・解体工事
- ④ 建方工事
- ⑤ 屋根工事

講師 小松泰彦(建災防セーフティエキスパート)

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

# 災害事例

## ① 解体工事

1 高所の危険作業で作業手順を確認せず、親網設置前に作業に入り墜落する。



### 👍 防止策

作業開始前に危険箇所の作業内容や作業手順、役割分担を確認する。

マニュアル15ページ

**6** トラックに山積みされた型枠の上で整理していた作業者が、バランスを崩してトラック際の路面に墜落する。



**👍 防止策**

高さが2m以上で作業を行う場合、あおりに簡易作業床を取り付ける等の墜落防止措置を施す。



### ③ 足場組立て(解体)工事

- 1 手すりも親綱も先行せずに上層の足場組立てを行っていたら、バランスを崩した作業者が墜落する。



#### 👍 防止策

手すり先行、親綱先行等の方法で、必ず安全帯を使用しながら足場組立て作業を行う。

- 3** 足場の作業床から管柱を組立中、身体を乗り出した弾みで前のめりとなり、作業床から墜落する。



**防止策**

前手すり・中さんのない足場では、後ろ手すりに安全帯フックを掛けてから作業する。

- 4** 脚立の天板に乗り梁落とし作業中、振り上げたかけやでバランスを崩し、脚立から墜落する。



**👍 防止策**

脚立は天板に乗らず踏み面に乗り、脚立から降りてこまめに移動しながら、無理な作業姿勢とならないようにする。

マニュアル24ページ

- 5** 2階の梁に登って構造金物の仮締めと、筋交いの仮止めをしていた作業者が、梁を踏み外して墜落する。

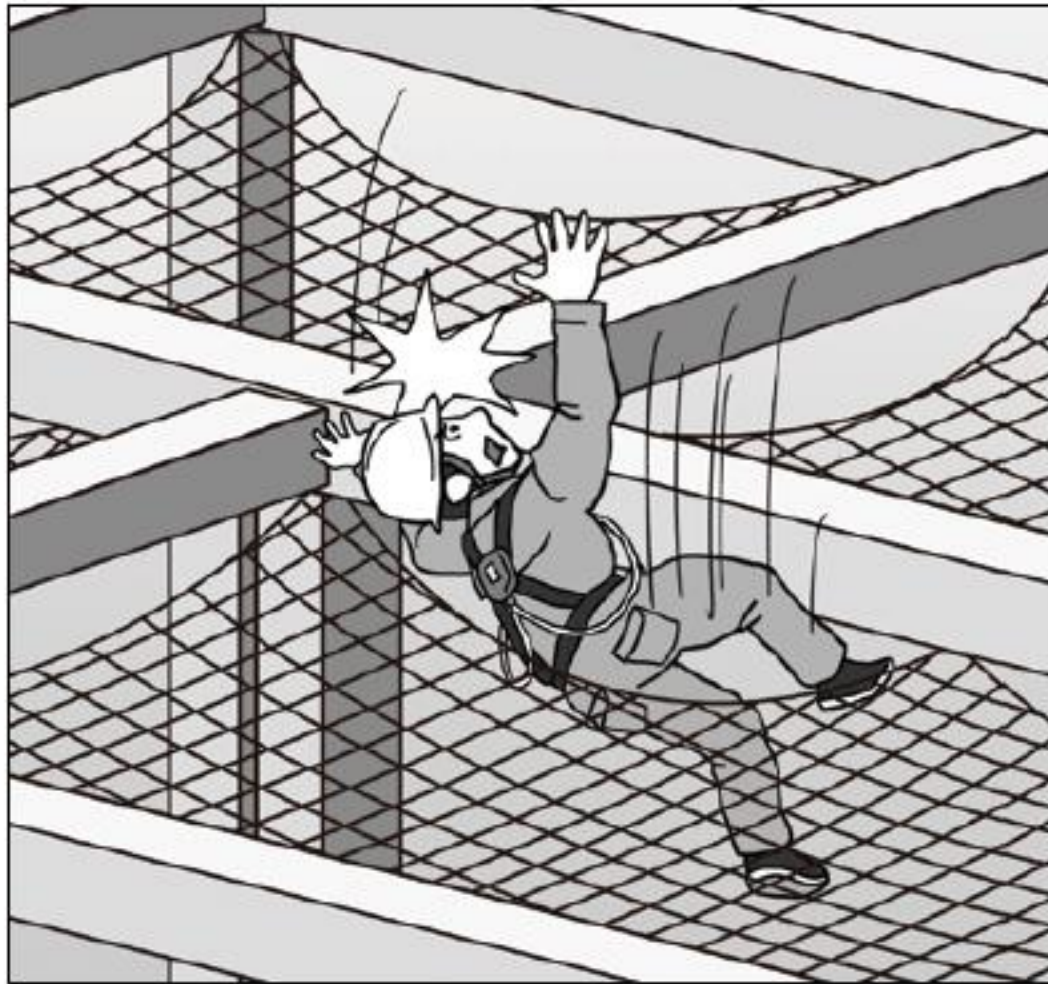


**👍 防止策**

作業前に安全ネットを設置するか、足場から親綱を張り安全帯を使用するなど、墜転落の防止措置後に梁上に登る。



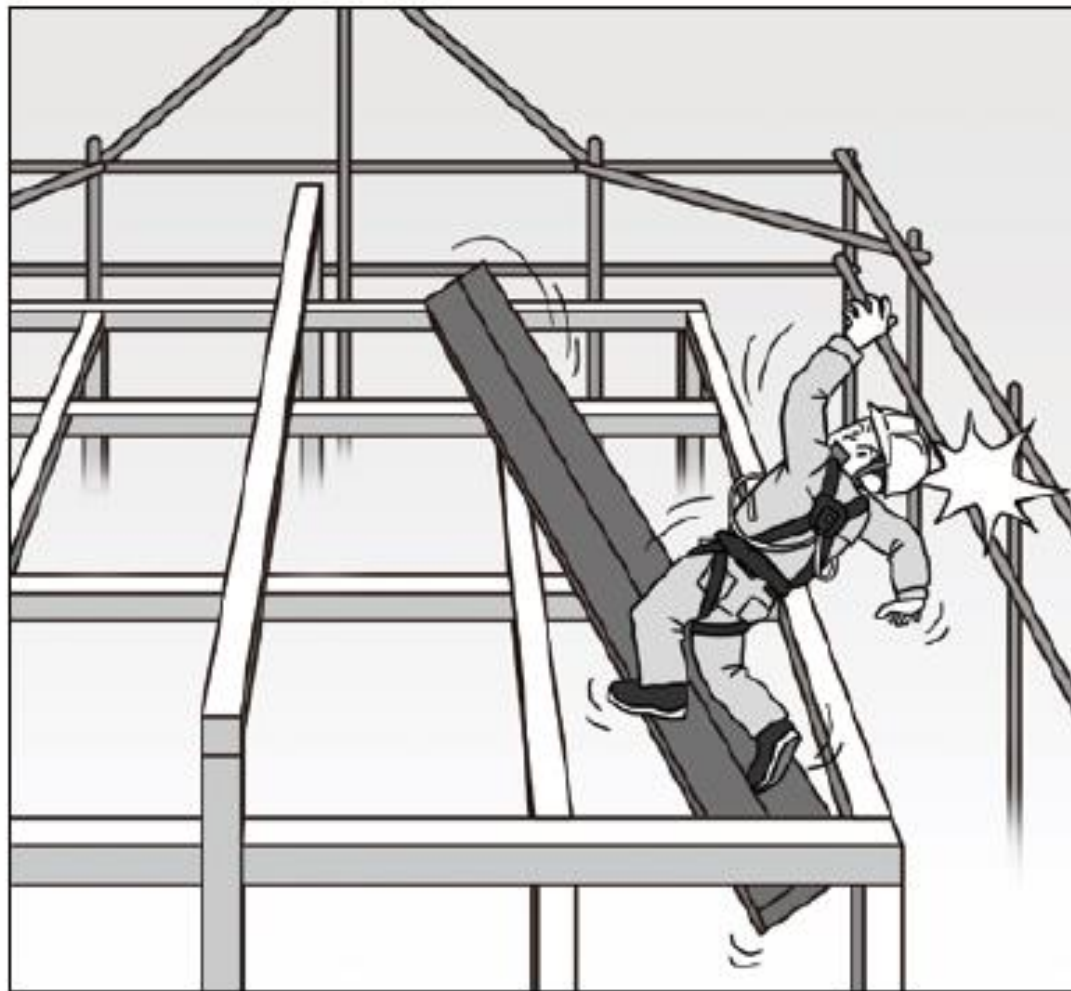
- 6 梁から足を踏み外して安全ネット上に転倒した作業者が、梁とネットの隙間から墜落する。



**👍 防止策**

安全ネットの支点  
(取付け金具)間隔  
は1.8m以下とし、  
梁とネットの隙間は  
20cm以下とする。  
(各社基準に従う)

- 7** 小屋組作業中、梁上に掛け渡した道板上で母屋の取付け作業中、道板がずれて梁から外れ、道板とともに作業者が墜落する。

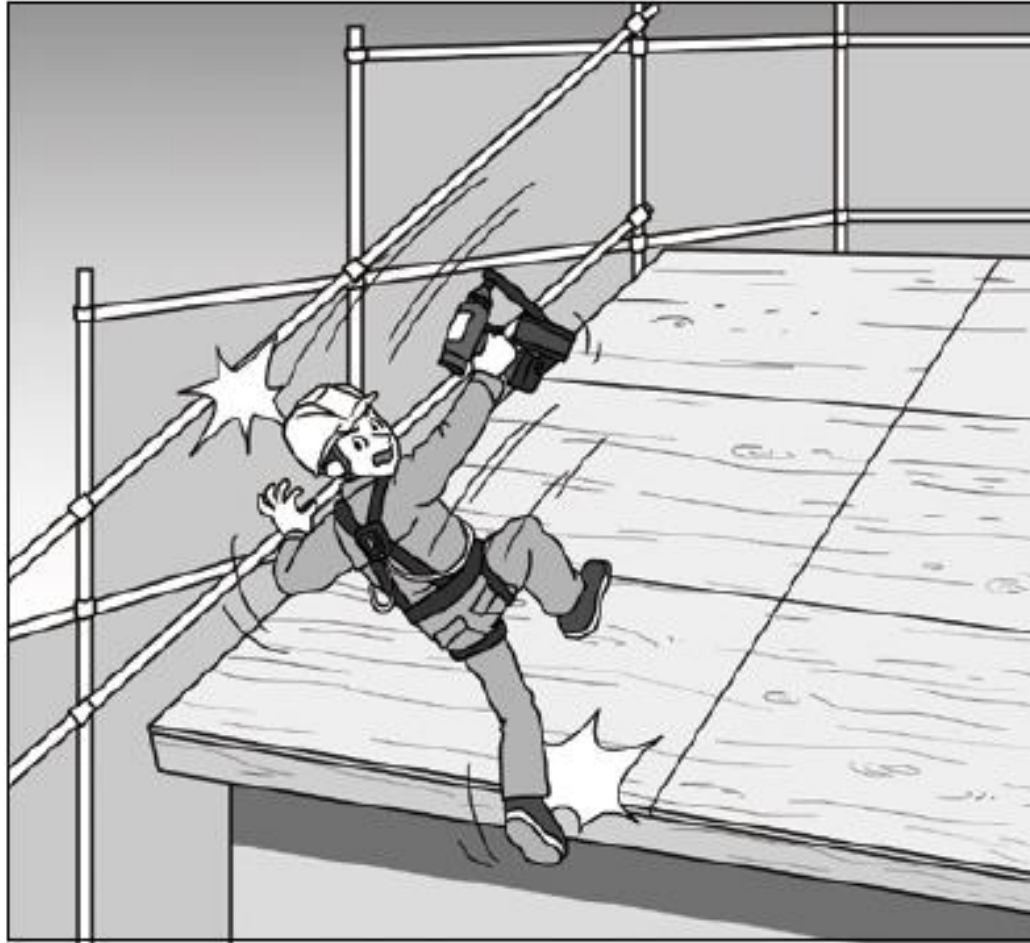


**防止策**

道板は固定し、安全ネットまたは親網と安全带等で、墜落防止措置を施す。

## 5 屋根工事

- 1 屋根足場の盛替えが遅れていて一部に開口があったが、工期を急いでいたのでそのまま作業を開始したら、作業者が開口部から墜落した。

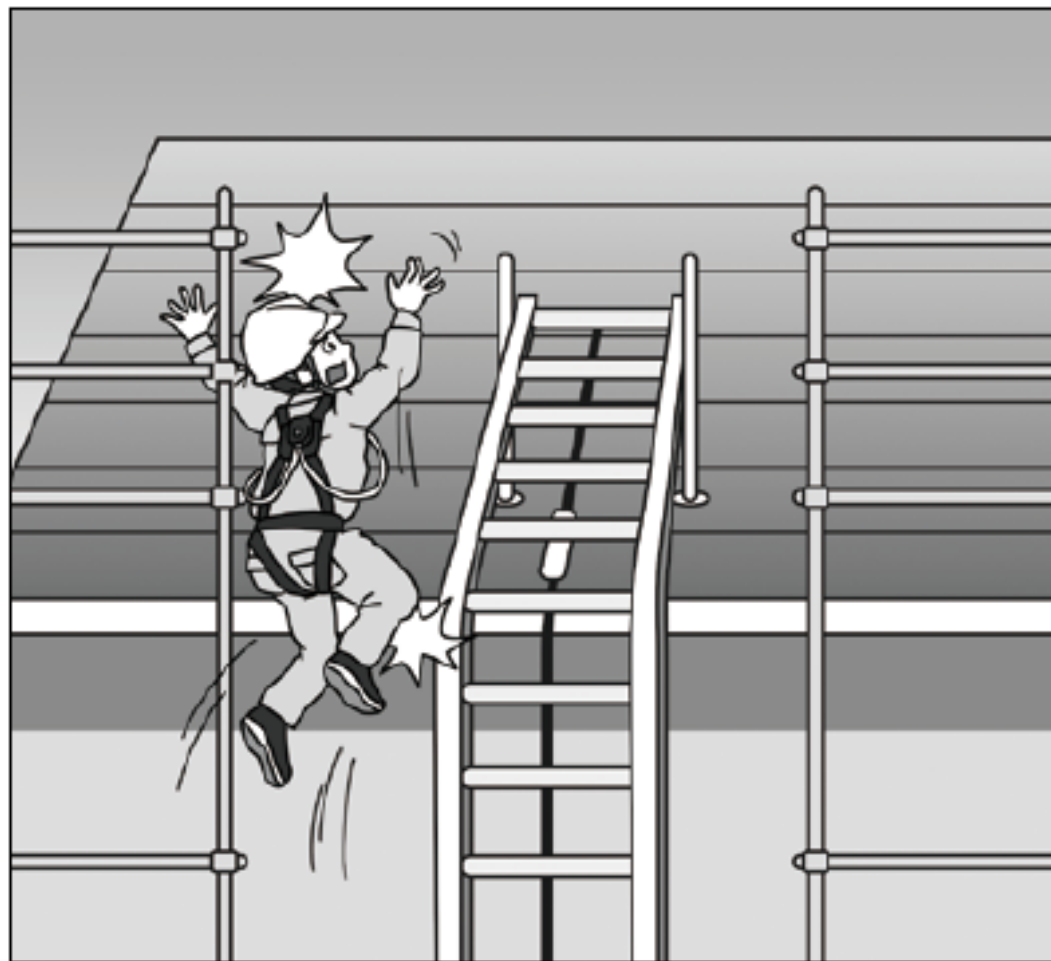


### 👍 防止策

屋根足場の完成後に屋根作業を行う。難しければ、親綱を張り安全帯を使用して作業を行う。(親綱は1人に1本)

マニュアル27ページ

- 2** 屋根手すり・中さんの一部を外して瓦揚げ機スライドレールの据付作業中、バランスを崩し墜落した。



**👍 防止策**

屋根上の瓦揚げ機の据付作業や、荷の取込作業時は、屋根足場に安全帯フックを掛けて行う。